



西条市長  
伊藤宏太郎

新年明けましておめでとうございます。謹んで初春のご祝詞を申し上げますとともに、皆様のご健勝と限りないご清福を、心からお祈り申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、金融・経済危機のショックから世界が回復に向かう中、我が国の経済は、ようやく持ち直しの動きを見せておりますものの、国民生活に直結する雇用や地域経済の情勢は厳しく、さらに政府が日本経済のデフレーションを宣言したことにより、一層予断を許さない状況下にあります。また、新型インフルエンザの感染が急速に拡大するなど、国民の安心と安全が脅かされています。

こうした中、西条市におきましては、市民の皆様の「安心・安全・健康」を守ることは行政の責務であるとの認識の下、防災対策の強化や地域医療体制の立て直しをはじめ、企業誘致による雇用の創出、新型インフルエンザワクチン優先接種対象者に対する市独自の助成等の施策に、積極的に取り組んでおります。

新市誕生から、はや5年の年輪を重ねるに至りました。この間、市民の皆様の力強いご支援によりまして、地域住民の融和と「一つのまち・西条」という一体感の醸成が大きく進むとともに、皆様の「市民力」をもって、本市独自のまちづくりも着実に進展しております。

昨年6月には待望の西条・丹原の両図書館が開館し、新たな「ひとづくり・まちづくり」の拠点が誕生いたしました。また、経済成長の著しいアジア諸国との交流を見据えまして、東予港湾施設の整備も精神的に推進してまいるところであります。

一方、新しい年を展望してみますと、権交代に伴いまして、国はもちろんのこと、地方自治体も大きな変革を求められておりますが、基礎自治体である我々市町村の責務は不変であり、本年も「攻め」の姿勢をもって、着実にまちづくりを進めてゆかなければなりません。

そうした思いをもって、全国に誇れる農業生産力や工業集積、充実した情報発信拠点を背景とする「西条パワー」を活かした産業振興を主軸とする独自のまちづくり施策を推進し、財政力の強化を図る一方、皆様の「安心・安全・健康」を守るための、内政の充実にも全力を挙げて取り組み、地域の均衡ある発展、そして何よりも市民の誰もが安心を実感できるまちづくりにつなげてまいりたいと思っております。

本年もどうかこの上ながらのご支援をお願い申し上げますとともに、皆様方の益々のご多幸、ご健勝をお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

平成二十二年元旦